

「昔の人の言い伝え」

2022年01月31日

そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」イエスは言われた。「イザヤは、あなたがた偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は唇で私を敬うが／その心は私から遠く離れている。空しく私を崇め／人間の戒めを教えとして教えている。』」（マルコ福音書7章5節～7節）

主イエスの「神の国」宣教はファリサイ派の人々や律法学者たちにとって、体制を覆す危険なものに見なされ、看過できないものになっていた。エルサレムから下って、主イエスの下に集まってきた。主イエス一行を監視し、律法違反をあげつらうためである。彼らは、主イエスの弟子たちが手を洗わないで食事をする者を見た。—ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを守り、念入りに手を洗ってからでないで食事せず、市場から帰った時には、身を清めてからでないで食事をしない。また、杯、銅の器、寝台を洗うことなど、受け継いでいる沢山の守るべき決まりを遵守していた。—

ファリサイ派の人々と律法学者たちは主イエスに、「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか」と問い立てた。食事の前に手を洗うことは衛生上の手洗いではない。宗教的な清めの儀式である。その作法は、卵の殻一杯半分の水を、指先を上に向けた両手にかけ、水を手にそって下に流し、手首から下に落とす。次に、指先を下にして、反対の方から水をかけ、最後に片手ずつ、反対の手の拳でこすって清める。これを、食事前だけでなく、料理が変わるごとに行った。彼らは、弟子たちがこの清めの儀式を行わずに食事をしたことを、言い伝えを守っていないと指摘したのである。主イエスは、「イザヤは、あなたがた偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は唇で私を敬うが／その心は私から遠く離れている。空しく私を崇め／人間の戒めを教えとして教えている。』あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを固く守っている」と答えられた。

主イエスは更に、「あなたがたは、自分の言い伝えを重んじて、よくも神の戒めをないがしろにしたものだ」と繰り返し、モーセの十戒の第五戒の「あなたの父と母を敬いなさい」について、彼らの偽りの教えを暴いている。人間に関する戒めの中で「父と母を敬え」は、最初に置かれ、最重要の戒めとされていた。レビ記20章9節に、「父母を呪う者は必ず死ななければならない。父母を呪ったからである。その血の責任はその者にある」と厳しく規定している。主イエスは続いて、「それなのに、あなたがたは言っている。『もし、誰かが父または母に向かって、「私にお求めのものは、コルバン、つまり神への供え物なのです」と言えば、その人は父や母のために、もう何もしないで済むのだ』と。こうして、あなたがたは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている」と言われた。ファリサイ派の人々は、神への供え物（コルバン）と言って、献げれば、年老いた父母であっても助けなくてよいと教えていた。この言い伝えを守らせることによって自分たちが益し、宗教的権威が保てるからである。宗教的権威が振りかざされる時、裏側では、人間否定の悲劇が必ず起こっている。主イエスは、「これと同じようなことをたくさん行っている」と言い、体制を維持するために昔の人の言い伝えに固執し、具体的な愛を生きよという神の教えを無にしていると、彼らの偽善性を厳しく指摘された。